

クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会

インタビュー 指揮&チェンバロ **有田正広**

多士済々の顔ぶれに光を当てる

普段は 1800 年前後のオーケストラ曲をオリジナル楽器で紹介するクラシカル・プレイヤーズ東京 (CPT)。2 月の本公演と 3 月の室内楽公演では、いつもとは違った姿の CPT に出会える。2 月公演ではチェンバロも弾く指揮者の有田正広が、事の真相を語る。



—2月の演目はバロック音楽が中心ですね

クラシカル・プレイヤーズは、作曲当時のスタイルの楽器を使うのが本分。メンバーは、バロック音楽をきちんと演奏できる人たちばかりです。プログラムは「バロック音楽の宝箱」にシャベルを突っ込んで、すくってみたようなもの。箱の中に光るところを見つけ、シャベルをざっと入れてみる。持ち上げるとさらさらと落ちるものもあるし、いっぺんにすくえるものもある。シャベルに入っていた作品を確かめてみたら、ヴィヴァルディがありテレマンがありバッハ親子があった。それをプログラムに並べてみたというわけです。

—それぞれの曲は関連が深そうに見えますが

関連があるようで、ないようで、ある(笑)。大バッハはドイツのワイマールにいたころ、ヴィヴァルディの《調和の靈感》を夢中で勉強しました。そのころ生まれたのが次男カール・フィリップ・エマヌエル・バッハです。テレマンはこのエマヌエルの名付け親。意図したわけではありませんが関連している。「宝箱」の魔法ですね。

—エマヌエル・バッハの《オルガン協奏曲》は珍しい演目では?

2014年はエマヌエルの生誕300周年。会場のコンサートホールには、バロック仕様と現代仕様とのリバーシブル・オルガンが設置されています。それを使わない手はありません。エマヌエルの《オルガン協奏曲》を取り上げたのには、そんなわけもあります。エマヌエルはバロックと古典との端境期を生き、ニュアンスに富んだ音楽をたくさん生み出しました。《オルガン協奏曲》は、そんな作曲家のファンタジーを存分に楽しめる1曲です。

—テレマンの協奏曲では意外な組み合わせの独奏が聴けますね

高音楽器のリコーダーと、低音楽器のファゴットとを組み合わせた面白い作品です。「全ての楽器を演奏できる」と自叙伝に自慢げに書いたテレマンだけに、両楽器のよさが絡み合っています。

—ヴィヴァルディの協奏曲には弦楽器だけが登場します

クラシカル・プレイヤーズの公演は通常、

オーケストラ編成です。メンバーは普段、常設楽団の団員やソリストとして国内外で活躍しています。多士済々なのですが、オーケストラ公演では個々の奏者の魅力はどうしても隠れがちです。そこでオーケストラの中を腑分けして、各奏者の魅力にスポットライトを当てるのが2月の公演。各パートをじっくりと聴いてもらうのが目的です。ヴィヴァルディでは4人のヴァイオリン奏者が独奏として活躍します。オルガンを管楽器の集合体と考えれば、エマヌエル・バッハとテレマンの協奏曲では管楽器が前面に出ます。管楽合奏曲ばかりを集めた3月の室内楽公演も、個々の奏者に光を当てる企画です。2月の公演では、チェンバロを弾きながら指揮をします。バロック音楽にはそういうスタイルの方がふさわしいでしょう。

—指揮棒代わりに杖を使ったりは……

怖いので使いません(笑)。大先輩の音楽家リュリが指揮の最中に杖で足を突いて死んでいますから!

取材・構成：澤谷夏樹

テレビ朝日開局55周年記念

なんでも!クラシック 2014

誰もが楽しい6日間の「クラシック・フェス」

徹子の部屋、ドラクエ、フィギュアスケート、ビートルズ、プログレ、第九……。これが本当にクラシックなの?と思うくらい「なんでも!」あって「なんでも!」楽しめる、前代未聞の音楽祭。クラシックのビギナーもこれなら安心。

「敷居が高い」を打ち破る楽しさ

東京芸術劇場のコンサートホールとプレイハウスが、朝から夜までクラシック音楽であふれる6日間。『テレビ朝日 なんでも!クラシック2014』は、ここに来れば誰もがクラシック・ファンになってしまうと断言したくなるほど、気軽に多彩なプログラムがそろったワンダーランドだ。全23公演の中には本格派のベートーヴェンやチャイコフスキーを筆頭に、誰もが耳にしたことのある名曲や子供たちが楽しめるゲームの音楽、ソチ冬季オリンピックの話題で盛り上がる時期にふさわしいフィギュアスケートで使われる名曲、さらにはロック・ファンとクラシックの橋渡しをするビートルズ・ナンバーまで、さまざまなコンサートが行われる。

常に「敷居が高い」という形容がついて回るクラシック音楽だが、このフェスティバルはまったく無縁。「クラシックは難しそう」と思っている人にこそ、ぜひ足を運んで欲しいコンサートがそろい、しかも家族で楽しめるものが多いのだ。料金もさまざまであり、通常のクラシック・コンサートより安いチケットもあるため友人などを誘いやすいのもポイントだろう。有名な音楽家たちも多数出演して、交響曲やオペラ・アリア、室内楽曲やピアノ曲など、あらゆるジャンルの音楽を聴かせてくれるため、一気にクラシック通になってしまうような楽しささえ感じられる。

人気音楽家が登場する本格派クラシック

その幕開けを飾る前夜祭は、テレビ朝日の看板番組『徹子の部屋』から誕生したクラシック・コンサート。お馴染みの黒柳徹子がステージへ登場し、前橋汀子(ヴァイオリン)や西本

智実(指揮)らによる演奏とトークなどが繰り広げられる人気プログラムだ。

クラシックの名曲を素晴らしい演奏で味わいたいという方なら、パッションあふれる“炎のコバケン”こと小林研一郎の指揮によるチャイコフスキーや、デビュー55周年を迎えた中村紘子が十八番のグリーグとラフマニノフを弾くというコンサート、ベートーヴェンと2014年に生誕150年を迎えるリヒャルト・シュトラウスの傑作が堪能できる「ふたつの英雄物語」、そして福島へ思いを込めてベートーヴェンの「第九」交響曲とドヴォルザークの「新世界より」を演奏するグランド・フィナーレなどがおすすめ。

もう少し気軽に楽しみたいという方には、音楽番組「題名のない音楽会」でもおなじみの青島広志が指揮とトークを務めるオペラ・ガラ・コンサート、若手随一のチェリストである宮田大がクラシックや映画音楽などを奏でるリサイタル、名曲がたくさん使われているフィギュアスケートをテーマにしたコンサートなどが用意されている。

選ぶのに迷ってしまうほど多彩な内容は、まさに「なんでも!」というタイトルにふさわしい。

ビギナーからマニアまでが納得のコンサートも

通常は演劇やダンスなどの公演が行われるプレイハウスは、クラシック音楽ファンにとって新鮮な空間かもしれない。ここで行われるのは、子供たちが楽しめる「キッズから“はじめる”クラシック」と、大人のための「ミドルエイジから“はじめる”クラシック」という2つのシリーズ。それぞれ、ヴァイオリン、ピアノ、歌、ギターという4つのトーク+コンサートが行われ、人気音楽家たちが楽器や声の魅力を見せてくれる。このシリーズはテレビ



朝日の開局55周年を記念して、5才以下および55才以上の方なら550円となるシャレたスペシャル・プライス設定になっているのがうれしい。

ほかにも、超人気ゲームの「ドラゴンクエスト」と、やはり壮大な世界観を持つワーグナーの大作「ニーベルングの指環」を対峙させるコンサートは、豊かなオーケストラ・サウンドに浸りきれぬ一夜になるはず。また、クラシック界随一のプログレマニアで知られる荒井英治(東京フィル・ソロコンサートマスター)が中心となり、イエスやピンク・フロイドといった人気バンドの名作をオーケストラや弦楽四重奏で演奏するという刺激的なコンサートにも注目したい。

コンサートが行われる時間も午前中から夜までと幅広く、平日の昼を充実させたいという方、趣味の合うお友だちやママ友などを誘いたい方、家族で楽しい思い出を作りたい方、子供たちを音楽に触れさせたいという方など、さまざまなニーズに応えてくれる。

ビギナーからマニアまで、クラシックを楽しみ尽くす6日間となる『テレビ朝日 なんでも!クラシック2014』。これを体験すれば、きっと2014年は東京芸術劇場に足を運んでクラシックを堪能する機会が、ぜったいに増えるはずだ。

文：オヤマダアツシ

テレビ朝日開局55周年記念
なんでも!クラシック 2014
 2月6日(木)~11日(火・祝)
 コンサートホール/プレイハウス
 公式サイト <http://nandemoclassic.jp>
 主催:テレビ朝日/BS朝日/イープラス
 共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
 協力:豊島区/公益財団法人としま未来文化財団
 制作・運営協力:藍インターナショナル/
 インタースペース/ViViA

詳細はP11・P12へ

東京芸術劇場Presents
クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会
 2月1日(土) 14:00開演 コンサートホール
 指揮&チェンバロ:有田正広
 リコーダー:宇治川朝政/ファゴット:堂阪清高
 オルガン:ジャン=フィリップ・メルカールト
 管弦楽:クラシカル・プレイヤーズ東京(オリジナル楽器使用)
 A.ヴィヴァルディ:『調和の靈感』Op.3から第10番
 4つのヴァイオリンのための協奏曲
 G.P.テレマン:リコーダーとファゴットのための二重協奏曲
 C.P.E.バッハ:オルガン協奏曲
 J.S.バッハ:管弦楽組曲第3番

クラシカル・プレイヤーズ東京
 ●室内楽演奏会シリーズ vol.2 ~ハルモニウム・ジューク~
 3月21日(金・祝)18:00開演 コンサートホール・エントランス(5階)
 L.v.ベートーヴェン:木管八重奏曲 ほか
 オーボエ:本間正史、北 康乃/クラリネット:満江菜穂子、山根孝司
 ファゴット:堂阪清高、向後崇雄/ホルン:大野雄太、伴野諒介

Profile
有田正広(指揮&チェンバロ)
 古楽器と現代楽器の双方を駆使した広範な活動を繰り広げる、日本が世界に誇る国際的な音楽家の一。1989年「東京バハ・モーツァルト・オーケストラ」を結成し、指揮者としても活動を開始。2009年ロマン派までをレパートリーとする日本初のオリジナル楽器によるオーケストラ「クラシカル・プレイヤーズ東京」を結成。新たな音楽的創造を常に探求し、古楽器と現代楽器の枠を超えた新たな音楽的創造の領域へとさらに活動の場を広げている。

堂阪清高(ファゴット)
 1963年東京藝術大学附属音楽高校にクラリネットで入学すると同時にファゴットを始める。66年東京藝術大学に進み、在学中NHK毎日音楽コンクールにクラリネットとファゴットで入選。70年同大学をクラリネットで卒業後、同大学院にファゴットで入学。また東京都交響楽団にファゴット奏者として入団。73年より首席奏者となり、2012年退団。現在、沖縄県立芸術大学で後進の指導に当たる。

宇治川朝政(リコーダー)
 桐朋学園大学卒業。ハーグ王立音楽院修士課程修了。カタルーニャ高等音楽院にてリコーダーを専攻。パリ国立高等音楽院にて室内楽を専攻する。第14回古楽コンクール最高位受賞。ブルージュ国際古楽コンクール第2位受賞。第5回国際テレマンコンクール第1位と聴衆賞を受賞。05年アンブロネ・オペラプロジェクトに参加。11年ライプツィヒ バッハ音楽祭及びオリンダ音楽ネットワークに招聘され公演を行う。現在、木の器にて東京を中心に演奏活動を展開。

ジャン=フィリップ・メルカールト(オルガン)
 パリ国立高等音楽院をフルミエ・プリで卒業。またベルギー王立音楽院にて修士号を取得、モンス王立音楽院にて作曲法を学び2007年修士号を取得する。07年ジルバーマン国際オルガンコンクール第2位。09年ブルージュ国際古楽コンクールオルガン部門第2位。03年から札幌コンサートホールKitaraのオルガニストを1年務め、現在、所沢市民文化センターミュージズ オルガニスト、那須野が原ハーモニーホール アドヴァイザー、聖クレリコの宗教教育音楽研究所と片倉キリストの教会では講師を務めている。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 詳細はP11・14へ